

子供ど真ん中の学校

～かがやく海が見える丘より～

令和6年12月10日
長崎市立畝刈小学校
学校だよりNO.100
校長 田中 成年

＜子供ど真ん中教育＞

～正しい手当の方法を学ぶ～

5年生の保健で「傷の手当」の学習を行いました。「けがをしたときの簡単な手当の方法」について、みんなで考えました。今回は担任だけではなく、いつも子供たちの心と体を見守っている養護教諭とともに授業を行い、専門的な視点から子供たちに指導を行いました。



ケガの種類は「すり傷、切り傷、鼻血、やけど、ねんざ、つきゆび、だぼく」などたくさんあり、保健室で対応しているものばかりです。



「すり傷や切り傷をした場合の応急処置はどのようにしたらよいのでしょうか。」

「傷口を洗い、清潔にする。」「自分を守るためにも人の血液には触れないように、気を付ける。」

「鼻血が出たときの応急処置はどのようにしたらよいのでしょうか。」

「下を向き、鼻をつまむ・・・。」 この他にも、いくつか処置の仕方について学びました。



1年生がけがをしたときを想定して、たがいに応急処置をしました。

ポイントとしては「**優しく声をかけながら**」「**相手の様子や声を聞きながら、止血をする。**」その際とても重要なことは「**血液に触れないこと**」になります。

ビニル手袋はいつでもどこでもあるわけではないので、近くにあるビニル袋などを代用して、止血を行います。「**ビニルをつけて、ガーゼなど布製のものを傷口に当てて、止血をしていきます。**」戸惑いながらも、みんながんばって止血をしていました。

けがをしないことが一番ですが、けがが起きたときに正しい手当の仕方を覚えておくとう助かりますね。さらに、「**AED**」などの使い方や心臓マッサージの仕方なども早い段階で覚えておく、人の命を助けるお手伝いができるかもしれません。

子供たちには、避難訓練を含めて様々な場面で「自分や他の人の命を守る方法」について、伝えていきたいと思います。機会を見てご家庭でも話題にいただけると子供たちの考えや行動の幅が広がっていきます。ともによろしく願いいたします。